





# 審査結果報告書

2019年 1月 27日

主査 氏名 福田 倫也 

副査 氏名 上 生 通人 

副査 氏名 高平 尚伸 

副査 氏名 堀 口 利之 

1. 申請者氏名 : DM17021 中村 岳史
2. 論文テーマ :  
Impact of Gait Speed on the Obesity Paradox in Older Patients with Cardiovascular Disease  
(高齢心血管疾患患者における歩行速度が obesity paradox に与える影響)
3. 論文審査結果 :

健常者において、肥満は心血管疾患発症や死亡率増加のリスクを高める一方、心血管疾患を発症した肥満患者では、標準体重や低体重の患者と比較して生命予後が良好であるという逆転現象 (obesity paradox) が存在することが知られている。本学位論文は、身体機能に着目し、近年急増している身体機能が低下した高齢心疾患患者に obesity paradox が存在するか否かに関して詳細に検討した後ろ向き研究である。

本論文では、身体機能の指標として歩行速度を調査、測定し、歩行速度維持群 (身体機能維持) と歩行速度低下群 (身体機能低下) を比較検討した。その結果、身体機能が維持された高齢心疾患患者は肥満 (BMI 高値) であるほど生命予後は良好であったが、身体機能の低下した高齢心疾患患者では BMI は生命予後を予測する因子ではないことが明らかになった。

高齢心疾患患者において obesity paradox が身体機能低下に影響を受けることを初めて明らかにした点が本論文の新規性である。これらの患者では、体重管理だけではなく、身体機能を向上させるような介入を特に重視すべきであることを考察していることから、臨床的にも極めて意義深い。

以上より、博士 (医学) の学位取得に相応しい論文と判断した。